

コロナで減収13人に1人退学検討

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で家計の収入が減り、大学や専門学校での退学を検討している学生が13人に1人いる、との調査結果を学生団体が22日発表した。「バイトがなくなり学費が払えない」との声が多く寄せられ、団体は、全学生の授業料を半額にすることなどを政府に求める緊急提言を出した。

学生団体「高等教育無償化プロジェクト」(通称FREE)

学生団体、514人調査

政府に「授業料半額」要求

が9日からSNSなどを使い、感染拡大が学生に及ぼす影響を調査。21日までに計120の国公立大学・専門学校などに通う計514人から回答があった。本人のバイトや親の収入が減ったため、大学などをやめることを「少し考える」「大いに考える」と答えた人は計40人(7.8%)いた。回答者の13人に1人の割合になる。「休学を検討」も10人(1.9%)いた。

親ら家計を支える人の「収入が減った」「収入がなくなつた」と答えたのは計204人(39.7%)で、学生本人のバイト収入が「減った」「ゼロになった」のは計310人(60.3%)。自由記述では「バイトは休業補償が出ず、学費(に支払うお金)が足りなくなる」などの切実な声が上がった。

FREE代表の岩崎詩都香さん(21)は「収束がみえず、退学を検討する学生は今後も増える。国は早急に対策をとってほしい」と訴えた。(伊藤和行)